

は じ め に

環境保健部では、新潟県地域保健医療計画に沿って、平成元年度に保健所の再編整備を行うこととなり、それに向けた作業が行われました。また、新潟県公害対策審議会では諮問に応じて「新潟県における今後の大気保全施策の在り方」をまとめて答申し、その中で、大気保全行政推進上、調査研究の充実・推進の重要性を指摘しています。

一方、化石燃料の大量消費などが関わる地球温暖化や酸性雨・雪あるいはフロンガスによるオゾン層の破壊など、地球規模での環境問題が、全世界の取組むべき課題として大きくクローズアップされています。

私共の研究所ではこのような背景の中にあって、機能強化のはかられる基幹保健所と連携して全県的に行う花粉症に関する調査研究を企画し、平成元年度からこれを緒に就けることとなりましたし、また、多くの地域住民の関心を集めている農薬の空中散布についても、環境中の薬剤の挙動など、その実態の解明に向けて第1年度の予備的調査を終ることができました。

一方、一つの地方研究所の力には余る酸性雨・雪の汚染機構の解明については、外部研究機関等との共同研究に参加するなどして、私共の役割りを果たすための努力も続けてきました。

言うまでもなく、私共の研究所は、新潟県の環境保健行政推進上必要な調査研究の実施を本務としており、更にいくつかの研究テーマや行政検査にも取組んで、各種データの収集と、施策立案に携わる行政担当者に対するその提供にも努めてきました。

この年報は、昭和63年度1年間に全所員がこのようにして取組んだ活動の状況を取りまとめたものです。御高覧をいただき、種々御指摘、御指導をいただければ幸甚に存じます。

平成元年9月

新潟県衛生公害研究所長 上 村 桂